

文法カテゴリーとレファレンスについて

志 田 章

フーター (Heinz Vater) によれば、アーデルング (Johann Christoph Adelung) は冠詞 (Artikel) を定冠詞 (der, die, das) と不定冠詞 (ein, eine, ein) の2種類に分け、それぞれ二つの機能を認めている。

構造文法においては、冠詞には定冠詞と不定冠詞だけが属しているのではないとされ、指示詞 (dieser, jener) と所有代名詞 (mein, dein, sein usw.) が加えられた。

生成変形文法では、冠詞は限定詞 (Determinantien) と限量詞 (Quantoren) とに分類され、welcher, beide, derjenige そして derselbe が加えられた。

これらの歴史的流れのなかで、冠詞には一般に二つの機能が認められているということが分かる。すなわち統語論的機能と意味論的機能である。

統語論的機能は、グリム (Hans-Jürgen Grimm) とハインリッヒ (Gertrand Heinrich) によつて、除去テスト (Weglaßprobe)・置き換えテスト (Umstellprobe) を用いて調査されている。つまり性・数・格の表示がそれである。

彼らはまた、交換可能性 (Austauschbarkeit) によって意味論的機能を調査している。グリムとハインリッヒは、冠詞のもつ様々の意味を、少数のより還元された意味へと分類し、それを記号素 (Monem) と呼んで

いる。例えば同一性を示す記号素を例に取るなら、それは確定性の (Definitheit) を表現するときに常に前提されねばならない記号素である。例えば前方代応 (Anaphorik) ・連想的使用 (assoziativer Gebrauch) ・直接状況の使用 (unmittelbar situativer Gebrauch) ・抽象的状況の使用 (abstrakt-situativer Gebrauch) において現れる。

ところでラテン語のように、冠詞の役割が厳密に規定されていない言語がある。冠詞はなしで済ますことができるということであろう。ヘルマン・パウ (Hermann Paul) が明らかにしているように、冠詞は語源的には指示詞であったのだが、このことは冠詞の機能とどのように係わり合っているのだろうか。例えば論理学では、変数 (Argument) と関数 (Funktion) だけが統語論的・意味論的に規定されており、ドイツ語と比較すれば極めて単純である。フレーゲ (Gottlob Frege) らによって、アリストテレス以来の伝統的論理学は一層単純化されたのであった。

フィルモア (Ch. J. Fillmore) は、冠詞の格表示機能に意味論的素性を割り当てている。グリント (Hans Glinz), ブリンクマン (Hennig Brinkmann) らも同様の考えを示している。例えばグリントの対格部 (Zielgröße) ・与格部 (Zuwendegröße) 等である。つまり統語論的機能と意味論的機能との関係が問題にされているのである。

アメリカの言語学者ジャッケンドフ (Ray Jackendoff) は、概念構造 (conceptual structure) というレベルを提起している。この心的レベルは、統語構造と意味構造とを対応付ける規則を含んでいる。この規則によって統語論的諸機能は意味論的素性を与えられ、対象化されている。その結果ジャッケンドフの言う「投影された世界」に、「存在する」ことになる。それによるなら限量詞は、それが結び付いている名詞にとって述語的特徴を有しており、限定詞は、それが結び付いている名詞句内部へと作用するのではなく、それ以外のある対象を指示するのである。つまり限量詞は不確定性 (Indefinitheit) という特徴を、限定詞は確定性という特徴

を有している。特に *aller* のように両性質をもっているものもある。フエーターは限定詞の浮動 (Quantifier Floating) という言語現象を例に挙げ、*aller* を説明している。

限定詞と限量詞の機能は統語論的及び意味論的に異なっている。抽象的に表現するなら、限定詞は或る枠組を規定し、限量詞は或る枠組の一つの特徴を付け加えていると言えるであろう。

冠詞は投影 (Projektion) という心的作用と深く結び付いており、語用論 (Pragmatik) の中で重要な役割を果たす。冠詞は何物かを指示する機能 (Hinweisfunktion) を抽象的レベルである統語レベルと意味レベルのレフェレンツ (Referenz) へと、また具象的レベルである具体的対象へと向かわせるのである。また冠詞は、言語習得のプロセスとも密接な関係を持つ点でも重要である。